

ボートレース芦屋の収益は、日本財団を通じてさまざまな国内外の公益活動に活用されています。

今回、その日本財団の活動を紹介します。

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

日本財団ってどんな団体？

日本最大の社会貢献財団です。より良い社会の実現を目指し、日本と世界でさまざまな分野において公益事業をサポートしています。

ボートレース芦屋は売上金の一部と別に、平成28年度から令和3年度にかけて、日本財団に総額6000万円を寄付するなど、財団の活動を支援しています。

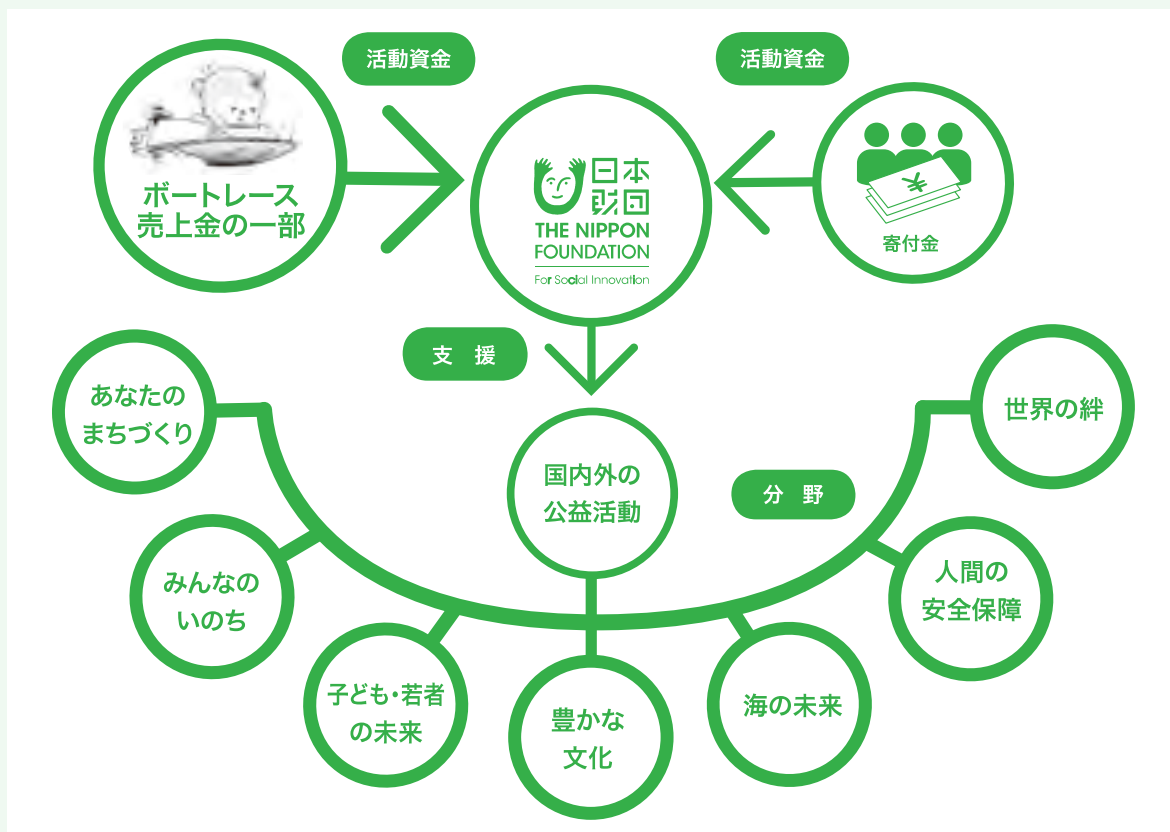
ロゴマークにはどんな意味が？

ロゴ左上の「Shareマーク」は笑顔に満ちた人の和を表し、パーツが閉じていない「日本財団」のタイポグラフィは「全ての人に開かれた未来」を、ロゴカラーであるグリーンは「親しみ」「共感」「希望」「平和」を表しています。



具体的にはどんな活動を？

市民、企業、NPO、政府、国際機関などさまざまな立場の人々と連携し、海洋・船舶に関する問題の解決、福祉や教育の向上、人道支援や人材育成を通じた国際貢献など、活動分野は多岐にわたります。近年は、度重なる大規模災害の影響を受けた地域への復興支援も行っています。



2020年度日本財団の活動報告

2020年度に行った活動の一部をご紹介します。

① 災害復興支援（令和2年7月豪雨）



△球磨川沿いの撤去作業 © 福地波宇郎 / OPEN JAPAN

熊本県を中心に九州全域で記録的な大雨となり、大河川の氾濫が相次ぎ浸水や土砂災害などの被害が拡大しました。コロナ禍での初の大規模災害であったことから、自治体や支援団体の対応が手探りとなったため、日本財団では被災県内を中心に支援活動を行う団体を募ったほか、重機やボランティア隊を派遣するなどの対応をとりました。

② 子どもサポートプロジェクト



△難病の子ども向けおもちゃセットを贈呈

プロジェクト賛同者から寄付された資金を活用し、東京おもちゃ美術館との共同事業「あそびのむし」プロジェクトを実施。

当事者と専門家の声を取り入れながら、難病の子どもと家族、友だち、そして支援者が一緒に遊べる世界中から取り寄せたおもちゃのセットボックスを開発し、全国約100カ所の施設・病院へ配布しました。

③ 海と日本プロジェクト



△「海と日本プロジェクト」：海岸でゴミ拾いをする子ども

「海を学ぼう」「海をキレイにしよう」「海を味わおう」「海を体験しよう」「海を表現しよう」の5つのアクションから、海の感動体験を通じて、特に若い人たちの海に対する関心を高める活動を行っています。

また、年々注目され問題視されている海洋ゴミ対策の促進に注力しています。

④ 新型コロナウイルス対策資金支援



△支援資金の用途の一例（ドクターカー）

対象の緊急医療施設でのニーズ調査に基づき総額約50億円の資金支援を行いました。主な用途は以下のとおりです。

- ① 医療従事者の防護やケア、院内感染防止のための資機材の購入
- ② 医療従事者や患者、家族の心身疲労などのケア
- ③ 検査・治療の体制強化